

西洋文明論 I

科目ナンバリング HEA-201
選択 2単位

藤田 敏明

1. 授業の概要(ねらい)

「批評論」とはどのようなことか、定義しにくい、とりあえずこの講義においては「文化事象を相対的、批評的に考える精神を涵養する」「自分自身、あず備自分の所属する文化文明圏で理解するものより広い視野」を身に着ける訓練の場であると位置づける。それを前提として、西洋——基本的にはヨーロッパおよびアメリカーの、「批評」のいくつかの事例を具体的に考察していく。

方法論としては、ある『命題』テーゼを提示し、それに対して『反命題』アンチテーゼをぶつけ、そこから「統合命題」ジンテーゼを想像する、というスタイルを採用する。

前期は、まず、古典古代ヨーロッパの基礎となる、ギリシア文明、ローマ文明、およびキリスト教の三位一体から始める。最終的には、「人間性」自体に対する「批評」がなされるはず。

2. 授業の到達目標

まず、何よりも、「日本とは異なるヨーロッパ」文明の基本について最低限の理解をすること、常識を習得すること。「自分が今まで暮らしてきた日本とは異なること」を理解すること、さらには「ヨーロッパを通して日本を考える」逆に「日本をとおしてヨーロッパを考える」姿勢を身に着けること。

3. 成績評価の方法および基準

授業時毎回提出の小レポートにおける授業内容理解55%、および学期末のレポート45%。ただし、レポート提出は必須です。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は使用せず、毎回、教員からのハンドアウト、および映像によって授業を進行します。参考文献については適宜授業中言及します。

教科書は使用せず、毎回、教員からのハンドアウト、および映像によって授業を進行します。参考文献については適宜授業中言及します。

5. 準備学修の内容

「西洋文明」および日本文化についての基本的な常識が、授業前に必要です。授業開始後は、自分の持っていた知識と、授業内容との相互検証。

6. その他履修上の注意事項

文化、文明をはそもそもどのようなものか、さらには、人間とはどのようなものなのか、という、「日常必要な知識」とは異なる『問いかけ』がなされる授業です。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション、「西洋」「批評」の定義づけ。ヨーロッパの基本としての「ギリシア、ローマ、キリスト教」まずは、ギリシアから。
- 【第2回】 イントロダクション、「西洋」「批評」の定義づけ。ヨーロッパの基本としての「ギリシア、ローマ、キリスト教」まずは、ギリシアから。
- 【第3回】 アリストテレス、「詩学」西洋文明における「カテゴライゼーション」「定義づけ」「論理」の重要性。ギリシアにおける古典的な『冒険譚』Jason and Argonauts]
- 【第4回】 アリストテレス、「詩学」西洋文明における「カテゴライゼーション」「定義づけ」「論理」の重要性。ギリシアにおける古典的な『冒険譚』Jason and Argonauts]
- 【第5回】 後半
- 【第6回】 後半
- 【第7回】 Jasonに対するアンチテーゼ、「悲劇」「メディア」
- 【第8回】 Jasonに対するアンチテーゼ、「悲劇」「メディア」
- 【第9回】 「メディア」、後半「男性原理と女性原理の相克
- 【第10回】 「メディア」、後半「男性原理と女性原理の相克
- 【第11回】 古代ローマ帝国——「ジュリアス・シーザー」、ブルータスによる糾弾とアントニーによる追悼演説
- 【第12回】 古代ローマ帝国——「ジュリアス・シーザー」、ブルータスによる糾弾とアントニーによる追悼演説
- 【第13回】 ローマ「帝国」と、『反帝国』原理
- 【第14回】 ローマ「帝国」と、『反帝国』原理
- 【第15回】 キリスト教の基本——創世記、エデンの園、ノアの箱舟、
- 【第16回】 キリスト教の基本——創世記、エデンの園、ノアの箱舟、
- 【第17回】 キリスト教の基本——イエス・キリストの生涯、前半
- 【第18回】 キリスト教の基本——イエス・キリストの生涯、前半
- 【第19回】 後半
- 【第20回】 後半
- 【第21回】 ヨーロッパ全体へのキリスト教の拡散う、「異教」の潜在化
- 【第22回】 ヨーロッパ全体へのキリスト教の拡散う、「異教」の潜在化
- 【第23回】 中世——ルネッサンス、魔法——アンチ・キリスト
- 【第24回】 中世——ルネッサンス、魔法——アンチ・キリスト
- 【第25回】 悪魔と天使の相克
- 【第26回】 悪魔と天使の相克
- 【第27回】 悪魔の誘惑——「ファウスト」前半
- 【第28回】 悪魔の誘惑——「ファウスト」前半
- 【第29回】 後半

